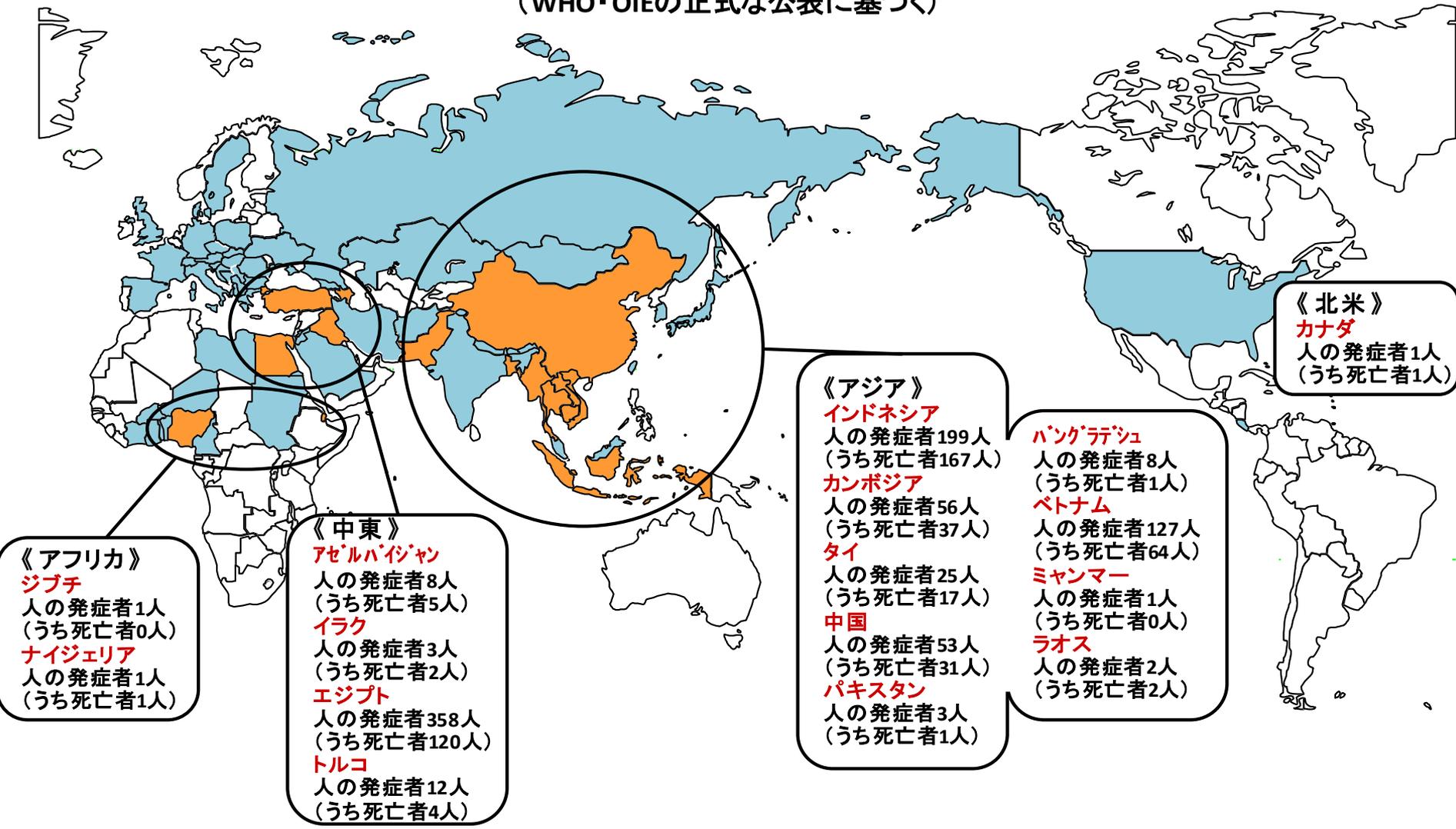


# 鳥インフルエンザのヒトへの感染事例の概要

平成29年3月30日  
厚生労働省健康局結核感染症課

# 鳥インフルエンザ(H5N1)発生国及び人での確定症例(2003年11月以降)

(WHO・OIEの正式な公表に基づく)



《アフリカ》  
**ジブチ**  
 人の発症者1人  
 (うち死亡者0人)  
**ナイジェリア**  
 人の発症者1人  
 (うち死亡者1人)

《中東》  
**アゼルバイジャン**  
 人の発症者8人  
 (うち死亡者5人)  
**イラク**  
 人の発症者3人  
 (うち死亡者2人)  
**エジプト**  
 人の発症者358人  
 (うち死亡者120人)  
**トルコ**  
 人の発症者12人  
 (うち死亡者4人)

《アジア》  
**インドネシア**  
 人の発症者199人  
 (うち死亡者167人)  
**カンボジア**  
 人の発症者56人  
 (うち死亡者37人)  
**タイ**  
 人の発症者25人  
 (うち死亡者17人)  
**中国**  
 人の発症者53人  
 (うち死亡者31人)  
**パキスタン**  
 人の発症者3人  
 (うち死亡者1人)

**バングラデシュ**  
 人の発症者8人  
 (うち死亡者1人)  
**ベトナム**  
 人の発症者127人  
 (うち死亡者64人)  
**ミャンマー**  
 人の発症者1人  
 (うち死亡者0人)  
**ラオス**  
 人の発症者2人  
 (うち死亡者2人)

《北米》  
**カナダ**  
 人の発症者1人  
 (うち死亡者1人)

■ : 家きん等での高病原性鳥インフルエンザH5N1が認められた国  
 ■ : 人でのH5N1発症が認められた国

発症者数計858人(うち死亡453人)  
 WHO2017年3月16日発表に基づく

# WHOに報告されたヒトの鳥インフルエンザ(H5N1)確定症例数

	2003～2009年		2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		合計	
	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数	症例数	死亡数
アゼルバイジャン	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	5
バングラデシュ	1		0	0	2	0	3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	8	1
カンボジア	9	7	1	1	8	8	3	3	26	14	9	4	0	0	0	0	0	0	56	37
カナダ			0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
中国	38	25	2	1	1	1	2	1	2	2	2	0	6	1	0	0	0	0	53	31
ジブチ	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
エジプト	90	27	29	13	39	15	11	5	4	3	37	14	136	39	10	3	2	1	358	120
インドネシア	162	134	9	7	12	10	9	9	3	3	2	2	2	2	0	0	0	0	199	167
イラク	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
ラオス	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
ミャンマー	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
ナイジェリア	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
パキスタン	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
タイ	25	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	17
トルコ	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	4
ベトナム	112	57	7	2	0	0	4	2	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	127	64
合計	468	282	48	24	62	34	32	20	39	25	52	22	145	42	10	3	2	0	858	453

注：確定症例数は死亡例数を含む。

WHOは検査で確定された症例のみ報告する。

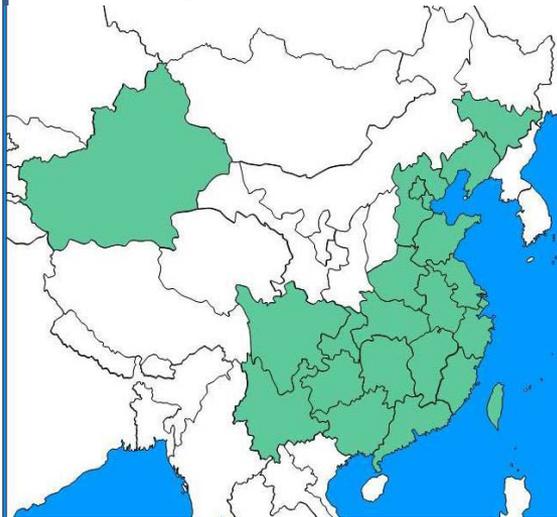
(2017年3月16日現在)

# 鳥インフルエンザA(H7N9)のヒトへの感染の対応について

経緯：平成25年3月以降、新たな鳥インフルエンザA(H7N9)ウイルスのヒト感染患者1329名の報告がある。感染患者のうち、少なくとも492名の死者が報告されている。発生地域は中国(4市16省2自治区)、香港特別区・マカオ特別区・台湾・マレーシア(輸入症例)・カナダ(輸入症例)(図)。平成28年末から中国における感染者の急な増加がみられ、過去の流行期に比べて発生規模が大きくなっているが、感染者の状況やウイルスの性質は過去の流行期と同様とされており、継続して状況を注視している。

(平成29年3月23日WHO発表に基づく。)

中国・台湾・香港の感染者発生地域

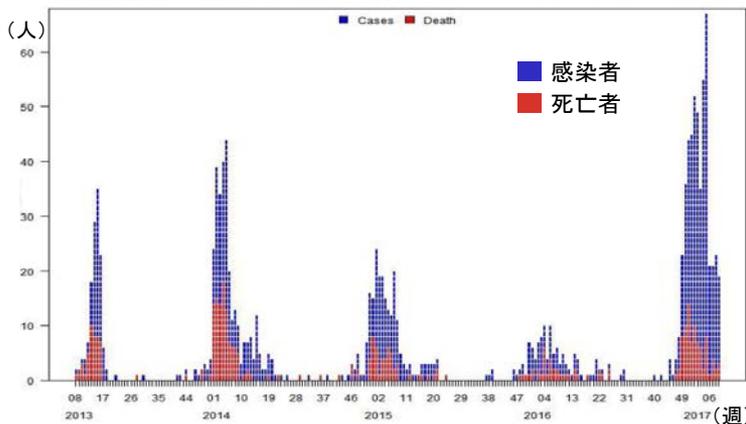


その他の  
輸入症例  
発生国

カナダ 2人

マレーシア 1人

発症週別の感染者・死亡者数(出典: WHOの平成29年3月16日発表)



## 主な特徴

- 感染源は未確定だが、生きた家さん等との接触による可能性が最も高い。
- 持続的なヒト-ヒト感染は認められていない。
- 抗ウイルス薬は一定の効果あり。
- ヒトにおける病原性や感染性の変化は認められない。

## 厚生労働省の主な対応

- 法的整備：感染症法に基づく二類感染症に位置づけ  
検疫法に基づく検疫感染症に位置づけ
- 検疫：検疫所の検査体制の整備、検疫所での注意喚起  
(ポスターや健康カード等)
- 国内監視体制：自治体(地方衛生研究所)の検査体制の整備
- 情報収集・発信：WHOや専門家ネットワーク等を活用した情報収集・分析、  
国立感染症研究所リスクアセスメントの発信
- ワクチン：パンデミック発生時にプロトタイプワクチンとして対応可能  
H7N9のワクチンは臨床試験を実施中

<中国国家衛生・計画生育委員会発表の感染者数(死亡者数)> 2013年11月1日以降法定伝染病

	1月	2月	3月	4月	9月	10月	11月	12月
2017	192(79)	160(61)						
2016	28(5)	29(15)	17(7)	11(7)	0(1)	2(1)	6(0)	106(20)
2015	83(28)	59(27)	20(18)	6(8)	2(0)	2(0)	2(1)	10(3)
2014	127(31)	99(41)	24(24)	23(13)	2(2)	1(0)	9(4)	19(4)
2013							3(1)	5(0)

# 国内における高病原性鳥インフルエンザの発生・検出状況(平成28年11月以降)

(平成29年3月28日17時時点)

**青森県(2事例)**  
青森市:あひる(約1.8万羽)(11/28)  
青森市:あひる(約4.7千羽)(12/2)

**青森県(8事例)**  
八戸市:オオハクチョウ1事例(12/8)【1】  
オオカキ1事例(12/28)【1】  
三沢市:コハクチョウ1事例(12/5)【1】  
オオハクチョウ1事例(12/19)【1】  
弘前市:オオカキ1事例(12/12)【1】  
平内町:オオハクチョウ1事例(12/12)【1】  
むつ市:オオハクチョウ1事例(12/12)【1】  
十和田市:オオハクチョウ1事例(12/29)【1】

**秋田県(6事例)**  
秋田市動物園:コクチョウ3事例(11/15,17)【1】  
シロフクロウ3事例(11/23)【3】

**岩手県(20事例)**  
盛岡市:オオハクチョウ9事例(11/23,12/17,22,25,27,1/8,2/13,3/8)【1】  
マカモ1事例(2/17)【2】  
滝沢市:マカモ1事例(12/9)【2】  
一関市:コハクチョウ1事例(12/13)【1】  
オオハクチョウ2事例(12/18,21)【1】  
花巻市:オオハクチョウ1事例(12/20,1/5)【1】  
ハクチョウ類1事例(1/5)【1】  
コハクチョウ2事例(12/22)【1】  
大船渡市:オオハン1事例(12/22)【2】  
紫波町:オオハクチョウ1事例(1/16)【1】  
※盛岡市:オオハクチョウ1事例(3/18)【1】  
※花巻市:オオハクチョウ1事例(3/25)【1】

**宮城県(1事例)**  
栗原市:採卵鶏1事例(約22万羽)(3/24)

**宮城県(2事例)**  
登米市:カン1事例(11/21)【1】  
栗原市:カン1事例(11/26)【1】

**福島県(2事例)**  
福島市:オオハクチョウ1事例(12/2)【1】  
鏡石町:オオハクチョウ1事例(12/14)【1】

**栃木県(3事例)**  
真岡市:オオカキ1事例(12/12)【1】  
大田原市:オオハクチョウ1事例(1/13)【1】  
那須塩原市:オオトリ1事例(2/20)【1】

**茨城県(62事例)**  
水戸市:オオハクチョウ1事例(11/29)【1】  
ユリカモ7事例(12/6,15,18,20,22,24)【2】  
コハクチョウ30事例(12/8,10-22)【1】  
コクチョウ14事例(12/19,21,26,30,1/4,16-19,21,22,24)【1】  
カムリカイツブリ3事例(12/24,25,28)【2】  
ホシハシロ1事例(12/21)【2】  
鹿嶋市:ユリカモ2事例(12/18,26)【2】  
オオハクチョウ2事例(12/28,1/19)【1】  
ひたちなか市:ユリカモ1事例(12/24)【2】  
潮来市:オオハクチョウ1事例(1/11)【1】

**東京都(1事例)**  
足立区:オナガガモ1事例(2/3)【2】

**愛知県(17事例)**  
名古屋市動物園:コクチョウ3事例(11/29,12/4,6)【1】  
シジュウカラガン4事例(12/10,13,14,17)【1】  
マカモ2事例(12/13)【2】  
ヒリガモ1事例(12/13)【3】  
環境試料2事例(12/17)  
豊橋市:ヒリガモ1事例(1/3)【3】  
西尾市:ホシハシロ2事例(1/4,11)【2】  
スガガモ1事例(1/6)【2】  
蒲郡市:スガガモ1事例(1/31)【2】

**千葉県(1事例)**  
旭市:採卵鶏1事例(約6.2万羽)(3/24)

**宮崎県(2事例)**  
川南町:肉用鶏1事例(約12万羽)(12/19)  
木城町:肉用鶏1事例(約16万羽)(1/24)

**鹿児島県(30事例)**  
出水市:環境試料1事例(11/14)  
ツル24事例(11/18-26,28,12/3,5,6,11,14)【2】  
カモ類生体・糞便5事例(11/20,22-24)【2,3】

**北海道(1事例)**  
清水町:採卵鶏1事例(約28万羽)(12/16)

**北海道(10事例)**  
苫小牧市:ハヤブサ1事例(11/24)【1】  
北見市:オオハクチョウ2事例(12/2,8)【1】  
上士幌町:フクロウ1事例(12/12)【2】  
音更町:ハヤブサ1事例(12/15)【1】  
白老町:オナガガモ1事例(12/20)【2】  
厚岸町:オオハクチョウ3事例(1/15,18,22)【1】  
浜中町:オオハクチョウ1事例(2/22)【1】

**新潟県(2事例)**  
関川村:採卵鶏1事例(約31万羽)(11/29)  
上越市:採卵鶏1事例(約24万羽)(11/30)

**新潟県(19事例)**  
阿賀野市:コハクチョウ13事例(11/27,12/2,5,6,8,9-14,16)【1】  
オオハクチョウ2事例(12/6,1/12)【1】  
上越市:ハシホリガラス1事例(12/1)【その他】  
ハヤブサ1事例(12/1)【1】  
新潟市:コハクチョウ1事例(12/19)【1】  
村上市:ハヤブサ1事例(1/1)【1】

**石川県(2事例)**  
加賀市:ヒシギ1事例(1/15,29)【1】

**三重県(1事例)**  
明和町:オオカキ1事例(12/14)【1】

**滋賀県(1事例)**  
草津市:オオハン1事例(1/4)【2】

**岐阜県(1事例)**  
山県市:採卵鶏1事例(約8.1万羽)(1/14)

**岐阜県(1事例)**  
各務原市:ハヤブサ1事例(2/24)【1】

**家きん ●**: 確定事例(9道県12事例)  
すべてH5N6亜型  
**野鳥等 ☆**: 確定事例(22都道府県218事例)  
すべてH5N6亜型  
☆: 検査中(2事例)

※検査中  
・月日は家きんでは疑似患者確定日、野鳥では検体の採材(回収)日  
・【】はリスク種の種類。野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応マニュアル(平成26年9月 環境省自然環境局)に基づく感染リスクの高い種(リスク種1>"2">"3">その他の種)

**京都府(7事例)**  
京都市:コハクチョウ7事例(12/22)【1】

**兵庫県(18事例)**  
小野市:カモ類糞便1事例(11/14)【3】  
西宮市:キンクロハシロ1事例(12/28)【1】  
ユリカモ1事例(1/18)【2】  
伊丹市:コハクチョウ15事例(1/13-18,23)【1】

**鳥取県(5事例)**  
鳥取市:カモ類糞便3事例(11/6,15,18)【2,3】  
米子市:コハクチョウ2事例(11/20)【1】

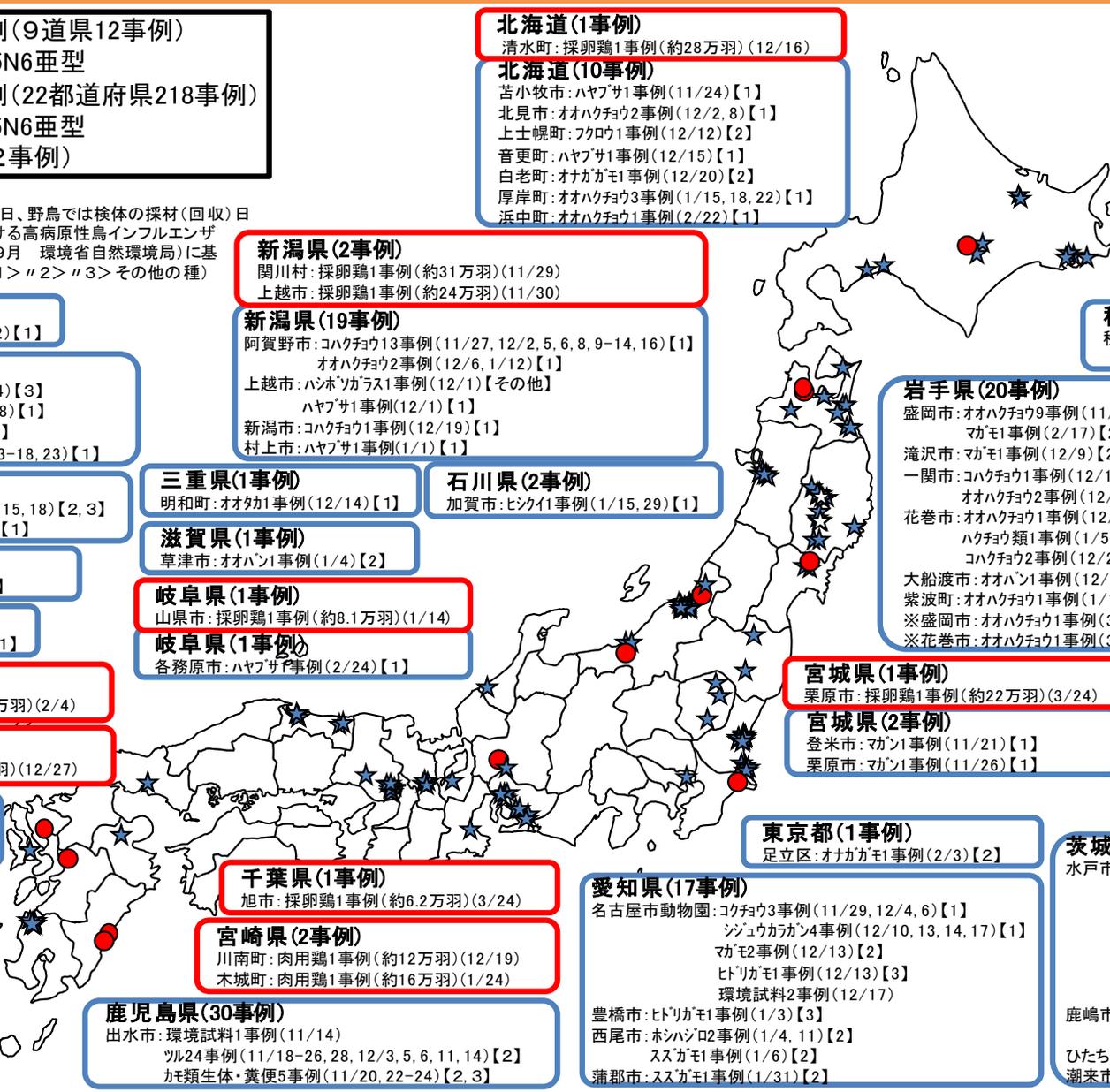
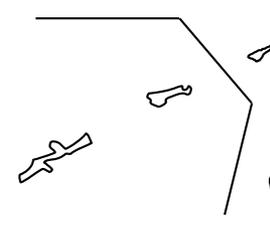
**山口県(1事例)**  
山口市:ホシハシロ1事例(1/9)【2】

**長崎県(1事例)**  
諫早市:ハヤブサ1事例(12/22)【1】

**佐賀県(1事例)**  
江北町:肉用種鶏1事例(約7.1万羽)(2/4)

**熊本県(1事例)**  
南関町:採卵鶏1事例(約9.2万羽)(12/27)

**大分県(1事例)**  
宇佐市:スリ1事例(1/12)【1】



# 鳥インフルエンザA(H5N6)の人での確定症例

No.	年齢	性別	発症日	報告省	報告市	トリとの接触	転帰
1	49	男	2014.5.9(報告日)	四川省	南充市	家きん	死亡
2	58	男	2014.12.4	広東省	広州市	生きた家きん	重症
3	44	男	2015.1.27	雲南省	デチェンチベット族自治州	死んだ野鳥	死亡
4	37	女	2015.7.6	雲南省	デチェンチベット族自治州	—	死亡
5	42	男	2015.12.12	広東省	掲陽市	生鳥市場	死亡
6	40	女	2015.12.22	広東省	肇慶市	生きた家きん	重症
7	26	女	2015.12.24	広東省	深圳	家きんの肉を扱った	死亡
8	25	男	2016.1.1	広東省	深圳	生鳥市場	死亡
9	31	女	2016.1.8	広東省	深圳	不明	重症
10	40	女	2016.2.20	広東省	惠州市	生鳥市場	重症
11	35	男	2016.4.9	湖北省	神農架林区	生鳥市場	重症
12	11	女	2016.4.11	湖南省	株洲市	生きた家きん	軽快
13	65	女	2016.4.24	安徽省	宣城市	生きた家きん	重症
14	50	男	2016.5.23	湖南省	湘西トゥチャ族ミャオ族自治州	—	重症
15	47	女	2016.11.18	湖南省	邵陽市	—	重症
16	30	女	2016.11.8	広西チワン族自治区		死んだ家きん	重症

WHO発表に基づく